

認定こども園 星の子保育園
令和2年度 自己評価・施設関係者評価 報告書

1. 園の教育目標

＜教育・保育方針＞

- ・子ども一人ひとりを大切にせる教育・保育
- ・子どもたちのより良い今と未来につながる生きる力を育む

＜具体的な目標＞

- ・主体的・意欲的に行動できる力を身に付ける
- ・遊びや活動を通して総合的な生きる力を育む
- ・社会の一員として望ましい資質（社会性）を育む
- ・基本的生活習慣の自立を育む

2. 施設関係者評価委員会の総評

令和3年3月22日に評価委員6名が同席の上公開保育を実施するとともに、今年度の本園における目標と取り組み状況の聞き取りを含めて施設関係者評価を行った。

本園は眼下に美しい琵琶湖を望む高台に位置し、周囲の自然との調和が見事に取れた外観は子どもが人生の基礎を学ぶ場にふさわしく、親しみやすさの中に品が見て取れる。子育て支援室には親子がくつろげる工夫が随所に見られ、一見カフェに来たのかと錯覚するほどであった。子どもが自由に触れることのできる質の高い玩具の数々、子育てに悩んだときに手に取りたくなる育児書、心安らぐ水槽に観葉植物、洒落たコーヒーサーバーにソファ。親子に安らぎを与えたいという意識が随所に光るこの環境は全国屈指の子育て支援室であると思われる。

各保育室の物的環境は自然物を多く取り入れた多種多様な要素が散りばめられ、子どもが主体的に選択できる活動の多さに圧倒された。単に玩具や素材の種類が豊富なだけではなく、子どもの思いや発想を具現化したであろう空間が多く保育室内で見取れた。

「子どもの声を聴く」ことの重要性を多くの保育者が理解していることが物的環境を見るだけで分かる。

また、保育者の子どもへの関わりは穏やかで、繊細であった。言葉が的確に小さな声で紡がれているため、園内全体が静かで子どもを含めた皆が一つ一つの行動、言葉を選び丁寧に生活している。園内の雰囲気を作る基礎は子どもに対する保育者の言葉の種類、大きさ、タイミングであることを再認識させられた。

保育理念とする「子どもの今と未来の幸せに」を念頭に、変化し続ける本園の保育の姿を実際に目にすると、保育者がよく学び専門性を積み重ね、保育理念の実現性が日々高まっていることが垣間見えた。

園の自己評価において課題としている、保育の記録のあり方の再検討と、本園の質の高い保育・教育をどう可視化し、保護者との子どもの姿に関する共有を一層充実させるか、保育者の事務量に大きな変化が生まれないように工夫しながら挑戦されることを期待する。

3. 本年度重点的に取り組む目標（評価項目）と自己評価及び取り組み状況

	目標・取組内容（評価項目）	評価	取り組み状況
1	自然を活用した環境を充実させ、園庭の環境整備や室内での自然物の活用を促進し、子どもが自然に親しむ機会を充実させる。	A	園庭に植樹を行い、芽吹く緑や花・実、またそこに集う生きものとの出会いが増加した。 保育室内においても、保育者が自然物を積極的に取り入れ、より豊かな保育環境を提供することができた。
2	子どもの自己肯定感を育むことを目標に、指導計画案を改定し、日々クラスにおいて検討し、肯定的支援を高め、関わりの工夫を充実させる。	B	毎月の指導計画の中に自己肯定感に関する項目を追加したことにより、保育者が本視点について定期的に振り返ることができた。 流動的に変化し、時にゆったりと関わることに困難を感じる場面においても、子どもの自己肯定感を育むことを念頭においた支援を行うことができるよう、さらなる習慣化を図っていきたい。
3	新型コロナウイルス渦において、保育と家庭への支援の充実を図るとともに、保育全体の見直しを行う。	A	緊急事態宣言下の家庭保育協力依頼期間には家庭での過ごし方や遊びの参考となるよう資料を作成して ICT を通じて配信する等して家庭への支援の充実を図った。また園児が夏祭りを企画して日常の保育の中で行うなど、外部との接触を極力避けながら、保育そのものは子どもが主体者となる場面をつくることができた。
4	保育に関する記録のあり方の検討・見直し	A	本園においては、保育の計画や記録様式のあり方について、これまでも検討を重ね、園独自に改訂を行ってきた。 次年度からは短期的な計画及び記録について、 Learning Story へと形式を改め、子ども一人ひとりの「夢中になっていること」や「気持ちを表現していること」などのありのままの姿に着目して、その子らしい「今ここ」を見出だし、その可能性を伸ばしていこうとする、肯定的な観察と記録の方法へ取り組みをすすめる。